



# 根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2013



(※よめないじは、おうちのひとからおしえてもらってネ)

## 1. コドモ防災クラブ第3回・第4回活動内容

第3回目：6月26日（水） 第4回目：7月10日（水）

MISSION1：コードモ防災士テーマソングを考えよう！



- まったときは 声を出そう
- どこへいっても にげ道チェック
- もっと、安全な場所を考えよう
- ぼくたちにも できることがある
- うつくしい自然の根知で
- さいあくのじたいに備えよう
- いつでも どこでも だれとでも
- しめいを果たすコードモ防災士

第3回目のクラブの直前、あるクラブ員がテーマソングの歌詞を考えてもってきました。その歌詞（左の内容）は、防災にかかわったものであり、しかも各フレーズの歌い出しは「こ・ど・も・ぼ・う・さ・い・し」の文字からはじまっているという力作でした。

母親と一緒に考えたそうですが、学校から家庭へ活動が広がっているのを感じます。

もうこれしかない！・・・？これを1番にして、クラブの時間に2番、3番をみんなで考えよう！

そして、クラブ員みんながそれぞれ考えたフレーズのいいところをつなぎ合わせ、第4回目のクラブで2番・3番を以下のように決定しました！

- まったときは 助け合おう
- どんなときでも あきらめず
- もっと、冷静に対応しよう
- ぼくたちにも できることがある
- うつむいてはいられない
- さいあくのじたいをのりこえろ
- いつでも どこでも だれとでも
- しめいを果たすコードモ防災士

- まったときは ぼくたちが
- どこでもいつでも かけつける
- もっと、ひなをスムーズに
- ぼくたちにも できることがある
- うまれ育ったこの根知で
- さいあくのじたいになる前に
- いつでも どこでも だれとでも
- しめいを果たすコードモ防災士



MISSION2：地域の安全安心マップをつくろう



5人1組で2チームをつくり、地域の安全安心マップづくりコンテスト※に応募することになりました。グループごとに、「どんなマップをつくるか」「どんな情報を記すか」「その情報をどうやって調べるか」「いつ・だれが・どこで・なにを」について相談しました。

6月29日・30日にカメラと地図をもって、地域探検を行いました。現在、マップを作成しているところです。

※地域の安全安心マップコンテスト（立命館大学歴史都市防災研究センター主催）



## 根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2013



(※よめないじは、おうちのひとからおしえてもらってネ)

### 3. 防災研修（6月15日）：クロスロードの取組から

あなたは、以下のような状況の中で、世の中の多くの人はどうする（YES or NO）と思いますか？

#### ①オリジナル学校編



- あなたは小学校の担任
- 授業中に火災が発生し避難することに。担任は学級の先頭で避難誘導することになっている。避難途中で、非常口の方向から、担任をしている新採用のA先生が「大変！」と叫びながら戻ってくる。A先生のこと心配・・・
- A先生を追いかける（YES）・子どもと一緒に避難する（NO）

18人中 YES は3名、NO は15名でした。多数派のNOは「まず子どもを避難させることを優先すべき」が主な意見であり、少数派のYESは「大変！は本当に大変なんだろう。子どもは（自分たちで）避難できる」「まず（大変！の）状況把握」などの意見でした。

この場合は、「担任は学級の先頭で避難誘導する責任」が世間的に求められているようです。

#### ②市民編 5014



- あなたは被災者
- 地震で自宅は半壊状態、家族はそろって避難所へ。ただ日頃の備えが幸いして、非常持ち出し袋には水も食料も3日分ある。一方避難所には水も食料も持たない家族が多数・・・
- その前で非常持ち出し袋をあける（YES）・あけない（NO）

10人中 YES は6名、NO は4名でした。YESは「分け合う」の意見が多く、NOは「しばらく様子を見る」という意見であり、両者の人数が拮抗したことから、判断に悩む事例であることが分かります。ぜひとも、非常持ち出し袋を持参できるように準備しておきましょう。

#### ③災害ボランティア編 V010



- あなたはボランティア
- 積雪の被災地で、玄関先の雪かきを頼まれた。被災者宅では、高齢の住民がこれから雪下ろしを始めようとしている。仲間が「手伝おう」と屋根に上り始めたが・・・
- 手伝う（YES）・引きとめる（NO）

14人中 YES は4名、NO は10名でした。（児童は、10人中 YES が2名、NO が8名と同じような結果でした。）少数派のYESは「高齢者だから・・・」の意見が多く、多数派のNOは「頼まれたのは玄関先の・・・」の意見が多く、「登ると危険」という意見は1名でした。屋根に登るのは危険という認識は大事だと思います。また、玄関先で雪かきをしているのに、一人で屋根の雪下ろしをするのもいかなものでしょうか？この住民を止めなければなりませんね。

### 4. 根知小発！東日本被災地活動支援・現地視察バスツアー

校内研修の一環として被災地活動支援（ボランティア）・現地学習を企画しました。

8月17日 宮城県本吉郡南三陸町での漁業支援及び被災地見学等の現地学習活動の様子は、9月号で紹介します。

